

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 1 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	○入浴を楽しむ事が出来る支援 浴室の扉破損において応急処置がされていたものの、安全面、プライバシーの面から早急に改善する必要がある	ご利用者目線での支援を常に考えケアに努める	外部評価後、すぐに改善する	終了
2	33	○重度化した終末期に向けた方針の共有と支援 重度化や終末期における、本人、ご家族の希望、おもいに十分に添う事が出来ているか	ご本人、ご家族にとって安心できる支援に努める	今後も、本人様を大切に、共におられるご家族も大切に終末期におけるケアに対し、施設全体で協力しながら、また主治医の協力をいただきながら、ケアに努めていきたい	1ヶ月
3	52	○居心地の良い共有空間作り 環境整備において、職員目線での配置となっている箇所がある。	常に入居者様の生活の場所と考え、入居者目線での生活環境を提供する	常に入居者様の目線に立った、空間、動線を考えていく 2ユニットに配置された職員が、時には各棟を確認し不自然さを感じる環境等については、意見を出し、改善に繋げていく	2ヶ月
4	54	○居心地よく過ごせる居室の環境 入居者様が安心して和めるような生活のスペースになっているか	入居者様のご自由に安心して落ち着ける環境の提供	入居者様一人ひとりの生活に対する意向を把握し、本人が落ち着ける環境を提供していく。ご家族様の面会時には、遠慮なく過ごして頂けるような配慮も考える。 職員間での意見交換など取り入れながら実行していく	2ヶ月
5	40	○食事を楽しみ事が出来る支援 食事のエプロン使用はご本人にとって違和感があるのではないか、タオルで可能な場合もある	皆さんと和んだ時間の中で楽しいしよくじじかんを提供する	ご利用者様の食事摂取の状態を確認し、食事によってはエプロンが必要で無い場合もあると思われる。また、ご利用者様の状態を把握する事で介助方法を見直し、検討していく	2ヶ月

6	4	○運営推進会議を生かした取り組み 参加者が固定化してきている。地域の代表が集まる会議であるため、施設職員も交替で出席することで地域との関係についての意識が深まる	職員一人ひとりが地域密着型施設を理解し、地域に根ざした施設、そこで働く一員として二自覚を持つ	会議の日程はわかっているので、事前に参加職員を決め資料を確認してもらい、会議への参加機会を設ける	2ヶ月
7	1	○理念の共有を実践 開所当時からの理念があるが、開設10年以上経過している。今一度、原点に戻り、職員全員で見直し検討する	職員一人ひとりが理念に沿ったサービスの提供に努める	現在の理念を継続するのか、新しく掲げるのかを職員間で話し合い、内容を見直し、職員一人ひとりが意見を出し、取り組みやすい理念を掲げる。また、自らが理念作成に関わる事で意識の向上に努めたい	3ヵ月
8	35	○災害対策 地域消防団との合同訓練を計画しているが、放棄実施に向けて内容を双方で確認する	避難訓練を早期に実施する	区長、消防団の方に協力を依頼し、話し合いを実施し避難方法や職員の役割を確認し訓練を実施する	3ヵ月
9	49	○日常的な外出支援 ご利用者様の身体状況によっては、外出が難しい場合もあるが、個々に合った支援の方法があるのではないかと	ご利用者様の「〇〇がしたい」「〇〇さんに会いたい」という想いを一つでも実現に向けて取り組む	職員が本人からの要望を聞き取り、本人の身体状況等も把握し、実行していく。時には家族の協力も得ながら実行していく	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。